

長野県植物研究会第 213 回及び 214 例会の報告 その 1

大塚 孝一*

第 213 回及び 214 回例会 (2016 年 9 月 10 日 ~ 11 日) は、上田市菅平高原付近 (1 日目: 菅平湿原、2 日目: 大洞沢) で行われました。幹事: 大塚孝一。

1 日目 213 回の参加者は、佐藤利幸、大塚孝一、篠原喜運、笠原光枝、中西由美子、野林朝香、東浩司、堤久、石田祐子、藤田淳一、佐々木あや子、神林清文、横井力、横井望、大山健太、増井悠人 (以上宿泊・懇親)、島野光司、千葉悟志、垣内雄治、垣内美佐子、今井俊枝、井浦和子、吉沢敏江、石井高子、泉砂智、竹田正博、上野勝典、上野由貴枝 (28 名)。宿泊は、菅平高原の「菅平高原温泉ホテル」でした。

2 日目 214 回の参加者は、佐藤利幸、大塚孝一、篠原喜運、笠原光枝、中西由美子、野林朝香、東浩司、堤久、石田祐子、藤田淳一、佐々木あや子、神

林清文、中山 洸、島野光司、小林正明、中村千賀、吉沢敏江、石井高子、泉砂智 (19 名)。

1 日目は午後 1 時に菅平湿原の入り口にある「菅平高原自然館」に集合し、はじめの挨拶、自己紹介の後、集合写真 (写真 1、2) を撮り、湿原を一週して戻るコースで出発しました。湿原の中の木道が老朽化していることもあり、周囲を巡るコース沿いを歩きました。時折、大学や企業等の合宿でランニング練習をしている方々の妨げにならないよう注意を払いました。最初に観察したのが、この地がタイプ産地となっているヤチアザミでした。故清水建美先生が *Cirsium shinanense* T. Shimizu と命名しています。発見の経緯や特徴などについて、「長野県植物研究会誌 2 号 (1971)」に詳しく書いています。その他特徴的な植物として、クロミザンザシやカラ



写真 1 はじめの会・挨拶



写真 3 観察会の様子 佐藤先生 (右)



写真 2 集合写真 1 日目



写真 4 観察会の様子 タカアザミ

* 大塚 孝一 〒380-0952 長野市宮沖 199-1

フトイバラなどを観察しました。背が高いタカアザミには、感心が寄せられました(写真3・4)。外来種のオオブタクサやオオハンゴンソウなども目立ちました。

宿舎の「菅平高原温泉ホテル」は佐藤先生の息子さんが務められていて、今回は佐藤先生にご心配していただきました。温泉もありくつろげてとても良いホテルで、大学や企業の陸上部の方がたも泊まっていました。

2日目は、菅平ダム付近の大洞沢入り口に集合して、集合写真(写真5)を撮った後、沢沿いを歩きながら観察しました。沢沿いには、タチヒメワラビ、

ホソバイラクサ、シラネセンキュウ、オオツルイタドリ、カメバヒキオコシ、トガマダイオウなどを観察しました。その中で、変なアザミがあり、ヤチアザミとナンブアザミとの雑種らしいとのことになりました。これは、故奥原弘人先生が気づかれ、オオマチアザミと呼んだ種類の種類ようです(写真6、7)。沢筋の奥にブナ林があると云うことで、上流を目指しましたが、案内不用意で行き着けませんでした。引き返して少し広い場所でお昼としました(写真8)。昼食後入り口まで戻り、解散になりました。

植物リスト等の詳細は、藤田淳一氏の報告参照(例会報告その2)。



写真5 集合写真2日目

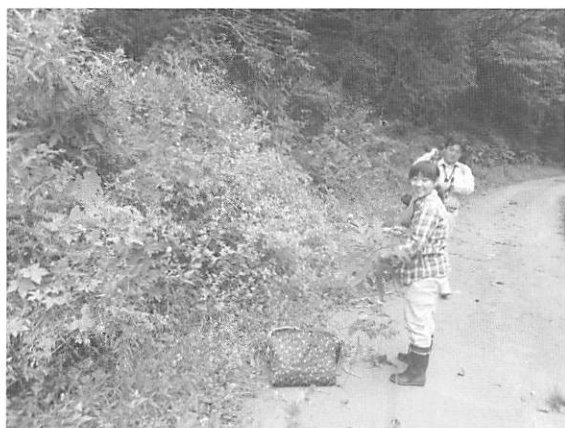


写真7 変なアザミ? 石田さん



写真6 観察会の様子 変なオオイタヤメイゲツ?



写真8 昼食風景